

QSK

にぬふあぶし

No. 310 ^ね子の方向の星(北極星)

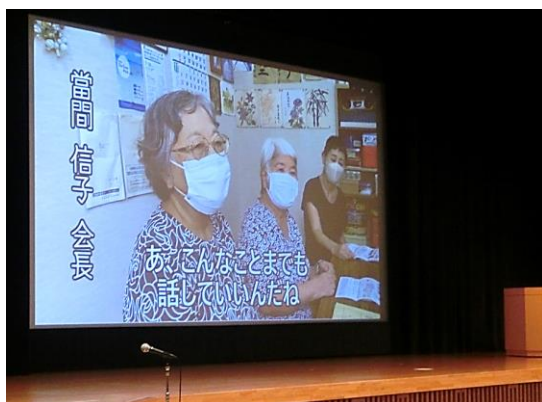


沖福連『家族大会2022』のご報告

10月21日(金)、沖福連の家族大会を西原町のさわふじ未来ホールにて開催いたしました。約3年ぶりの会場開催となった今回は、YouTubeライブによるオンライン配信も併用した、いわゆるハイブリッド型のイベントとなりました。

『終わらないコロナ禍を豊かに変えるために』をテーマに、精神科医の樺沢紫苑氏を講演会の講師に迎えた本大会は、会場約120名、オンラインではアーカイブ視聴も含めて、県内外から約200名の参加がありました。

大会の後半では、各地域家族会からのビデオメッセージを上映。コロナにも負けない家族たちの“いま”を、広く共有することができました。



第53回精神保健福祉普及大会に参加しました

11月2日(水)、県主催の精神保健福祉普及大会が、アトム・ユニバースてだこホールの市民交流室にて開催されました。

大会のテーマは『働く人のこころを守る』。コロナ禍では、いわゆるエッセンシャルワーカーだけにとどまらず、働き暮らす多くの人たちがさまざまに生きづらさや、精神的な苦しさを経験しています。直近の報道でも、沖縄で教職員の精神疾患による休職率が全国でもっとも高い割合を示すなど、職場のメンタルヘルスは私たちの社会全体で考えるべき喫緊の課題となっています。

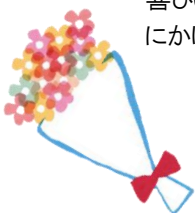
大会では、お笑い芸人まーちゃんの特別講演のほか、『職場のこころの健康づくり』を話し合う座談会がもたれました。

精神保健福祉事業功労者表彰では、沖福連・会長の山田圭吾さんと、沖縄市基幹相談支援センター所長の島和也さんがそれぞれ表彰を受けています。

他の多くの関連イベントと同様に、およそ3年ぶりの対面開催となった今回、考えさせられながらも笑顔にあふれる、大変意義深い時間となりました。



受賞者代表挨拶を述べる山田会長(上)と、喜びいさんで二人の応援にかけつけた一同(右)





第14回 全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと広島大会に参加して

2022年10月19日
當山 幸子

新型コロナ感染収束の見通しもつかない不安のなかで全国旅行支援が始まり、那覇空港は観光客でいっぱい、駐車場も満車でとめられない状態でした。ロシアによるウクライナ侵攻では、核兵器使用の可能性までささやかれています。このような情勢下において本大会が広島県で開催されることは大変意義深いことと思います。

オンライン配信もありましたが、どうしても広島の実地を見たいと、戦争について、核兵器について真剣に考える時期、時代だと考えたからです。

原爆被爆体験：八幡照子氏のお話では涙があふれて、とまりませんでした。この話をロシアのプーチン大統領に聞かせたいと思いました。

基調講演、特別講演で心に残ったのは、地域において精神障がい者と家族が安心して暮らせるために、家族会が強くなる必要があるということ。

国は「地域共生社会」実現への取り組みを推し進めようとしています。助けを求めたいのに適切なサポートが受けられない家族を支える仕組みづくりを、セットで考えていきたいと思いました。講演会を通して、地域住民等が支え合い、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていく方向性を見つけたように感じました。



大会の会場では、オンラインではできない名刺交換ができて、いろいろな話を聞くこともできました。DVD（『家探しの現場』）をもらったり、本（『みんなで歩けば道になる』）を貸してもらえたり、またびっくりするような話も聞くことができました。

近鉄が割引になったので、息子と旅に出かけたいと思いました。沖縄に帰ってから、「私のいない4日間は寂しかったですか」と尋ねると、「家族が欲しい」と思ったそうです。結婚ができたらいいなあ。あたたかい人間関係を築く力を高めて、学習会の取り組みを頑張り、皆様の力をお借りして。

考える時間をくださり、お好み焼きや広島城、宮島も行かせてもらい。
力不足ですが、家族会会長がんばります。ご協力をよろしくお願いいたします。
ありがとうございました。



宜野湾市地域活動支援センターはぴわんだより

皆さんこんにちは。地域活動支援センターはぴわんの歌姫です！ このたび、1年ぶりにはぴわんに復帰しました。去年の11月に男の子を出産し、初めての子育てに奮闘してきました。

始めの数ヶ月は昼夜問わず泣くことが多く、「何で泣き止まないの？」と分からないことが多く、思いどおりにいかない育児に、余裕がなく焦っておりまして。

そんな時に、保健師さんから地域にある子育て支援センターを紹介してもらい、足を運びました。親子が集い、子育ての悩みや疑問を情報共有することで息抜きになり、またイベントを通して私自身がリフレッシュできたことで、不安や悩みが軽減でき、子育てがより前向きで楽しめるようになりました。子育てを通して、親として学ぶ機会を得たことで、身も心も一回り成長することができました。

はぴわんを利用するメンバーさん同士も、お互いに交流することで同じような気持ちで過ごして頂けているのではないかなと感じました。

これからも地域活動支援センターはぴわんも心安らげる憩いの空間となれるよう、メンバーさんと一緒に作り上げていきたいと思っております。



歌姫(^^♪



◎編集後記◎

ふれあいプラザ宮古では、今年も文化作品展に向けての合同作品を『ア●ノマスク』350枚を用いて作成！毎年のごですがこれまた大作が完成いたしました☆次回にぬふあぶしでご報告させていただきますね。そんな最中にスポーツ大会・BBQ 交流会と、大忙しの11月を過ごし胸いっぱいです Y/O

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長 山田 圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1
てるしのワークセンター内
電話 098-889-4011 FAX 098-888-5655
E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp
発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0068
福岡市東区社領1丁目12番4号
電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723
定価：10円(会費に含まれる)